

立命館大学総合科学技術研究機構 創剤研究コンソーシアム 設置趣意書

21世紀に入って以降、新薬開発にかかるコストは年々上昇し続け、臨床試験の成功確率も依然として低い。その結果として、新たに承認される医薬品の数も低迷しているのが現状である。その主な失敗原因である有効性の不足と毒性の背景には望ましくない体内動態特性が一因と推察されていることから、新薬候補化合物の選択の早期から確実性の高いヒトを外挿した薬物動態評価や吸収予測技術は大変重要である。また、開発製剤や医薬品への経口吸収予測としても活用価値が高い。さらには持続性や標的化などによる効果の最大化を担う創剤研究における評価技術としても活用可能性が高い。

一方、最近の創薬シーズ指向の多様化（低分子化合物、バイオ医薬、インシリコ創薬など）や近年のアンメットメディカルニーズに対応するためには大学などの公的機関と企業との双方向のオープンイノベーション的な取り組みが必要であり、新薬の誕生には長い年月と数多くの異分野・異業種の革新的な技術のインテグレートも重要であることから、最近の多様な関連情報や課題を整理した上で解決方法などについて方向性を議論するために、関連する分野の研究開発者および技術開発者が集い、活発な交流を目的とした創剤研究コンソーシアムを発足いたします。創剤研究コンソーシアムのメインテーマは、「医薬品段階における最新の薬物動態評価やヒト吸収性予測および測定基盤技術」とし、最新情報の共有と緊密な交流を図ります。

他方、立命館大学創薬科学研究センターでは発足以来、「創薬（特にアンメットメディカルニーズ）」、「製剤」をキーワードに講演会・研究会を実施してきましたが、「創剤研究コンソーシアム」の新たな発足は当研究センター所属研究者及び参加対象者を広げ、創薬研究交流拠点をさらに拡大発展することが期待されます。すなわち、すでに発足している治療満足度が低い希少難知性疾患領域などを対象に創薬開発を目的とした「創薬研究コンソーシアム」と地域の製剤技術に関する課題解決を目的とした「製剤技術コンソーシアム」における「創薬研究」と「製剤研究」を橋渡しする「創剤研究コンソーシアム」は、当研究センター全体を相乗的に活性化するだけでなく、創薬から医薬品開発までのシームレスな情報収集が可能になり、入口（創薬研究）と出口（製剤研究）を意識した有意義なコンソーシアムを目指します。

主な活動内容

- ・最新の薬物動態評価やヒト吸収予測、測定技術等に関する情報共有のための研究会やセミナーの開催、関連する分野の研究開発者および技術開発者の交流
- ・研究・開発・技術に関する個別の課題に対する会員提案型分科会または勉強会の開催、運営
- ・創薬研究コンソーシアム、製剤技術研究コンソーシアムと連携した情報共有と中堅・若手研究者の育成

立命館大学では大学内のインフラをベースに学外の技術、情報を広範囲にかつ的確に取り入れることによってメンバー各位に身のあるサービスを提供してまいりたいと計画しており、設立趣旨をご理解いただき創薬科学研究センターに対するご協力を賜りますとともに、是非とも「創剤研究コンソーシアム」へご入会頂き、皆様の企業活動のご発展にお役立ていただきます様お願い申し上げます。

立命館大学総合科学技術研究機構 創薬科学研究センター

創薬科学研究センター長	北 泰行
創薬科学研究センター副センター長	伊吹 リン太
創剤研究コンソーシアム発起人	藤田 卓也